

産業別四半期見通し調査結果

(2015年4-6月期見通し)

<設備投資の増加から機械関連業種が堅調なほか、観光関連業種は業況の改善を見込む>

■ 県内産業天気図

◇ 2015年1-3月期の現況

➤ 全19業種中、「薄日（順調）」が6業種、「曇り（普通）」が9業種、「小雨（低調）」が4業種となった。

◇ 2015年4-6月期の見通し

➤ 全19業種中、「薄日（順調）」が8業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が4業種と、改善見通しの産業が多い。

天気図記号	2014年 10-12月期	2015年 1-3月期現況	4-6月期見通し
 (好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 (順調)	7 業種	6 業種	8 業種
 (普通)	7 業種	9 業種	7 業種
 (低調)	5 業種	4 業種	4 業種
 (不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■ 4-6月期見通しのポイント

- 製造業では、**工作機械**や**産業用機器**が、国内・海外ともに設備投資の増加が期待され「順調」。さらに、**電子部品・デバイス**と**プラスチック製品**も自動車やスマートフォン向けなどの部品需要増加から「順調」な見通し。一方、**飲料製造（ノンアルコール）**、**味噌**、**その他食料品製造**の各業種は原材料価格の高止まりなどから厳しい収益環境が続き、「低調」を見込む。
- 非製造業では、**機械器具卸**が設備投資の活性化により「順調」を見込む。**大型小売**は食料品の売り上げ増加に期待するも厳しい収益環境が続き「低調」となる見通し。**公共工事**は道路整備や防災対策を中心に高水準の工事量が見込まれ「順調」。**旅客、ホテル・旅館**は善光寺御開帳や大型連休による利用客の増加から業況は改善し、「順調」となる見通し。

照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、寺嶋）

<産業別天気図一覧(19業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

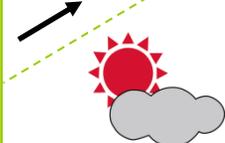
■調査期間：2015年3月中旬～4月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業19業種の139社

業 種	前期 (10-12月期)	今期 (1-3月期)	来期 (4-6月期)	
工 作 機 械			↗	
半 導 体 製 造 装 置			↗	
産 業 用 機 器			→	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造 (ノ ン ア ル コ ー ル)			→	
清 酒 ・ ワ イ ン			→	
味 噌			→	
そ の 他 食 料 品 製 造			↗	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			↗	
自 動 車 販 売			→	
公 共 工 事			→	
民 間 工 事			↗	
旅 客			↗	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			↑	

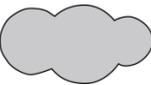
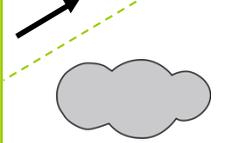
当研究所の注目産業

	4-6月期見通しの注目ポイント
工作機械	<ul style="list-style-type: none">➤ 国内は自動車関連やスマートフォン向けを中心とした機械需要の高まりから、堅調な推移が見込まれる。2月から「ものづくりサービス補助金」など新たな投資促進策も始まり、新規設備の引き合いや受注増加が期待される。➤ 海外は北米地域で自動車関連の生産が安定しており、機械受注が順調なほか、欧州も底堅い推移が見込まれる。中国は電子機器関連などの生産が安定しており、横ばい基調で推移する見通し。
ホテル・旅館	<ul style="list-style-type: none">➤ 大型連休の日並びの良さから観光需要の高まりが期待され、都市部・観光地ともに宿泊利用は順調に推移すると見込む。➤ 北信地域では善光寺御開帳開催や北陸新幹線延伸により予約状況が好調に推移しているほか、北信地域以外でも観光客の周遊を促し誘客に取り組む動きがみられ、宿泊利用は増加する見通し。➤ 外国人観光客は、アジア諸国を中心に堅調な利用が見込まれる。

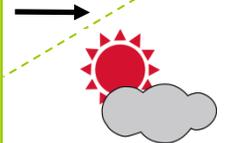
工作機械：国内における設備需要の増加に期待

<p>現況</p>	<p>国内は、自動車関連やスマートフォン向けの機械需要を中心に堅調だった。補助金や減税など投資促進策を活用した動きが中小企業に広がり、新規設備の需要も安定していた。海外は、</p>
	<p>自動車関連の生産が活況で、日系企業の製造拠点多い北米地域向けの機械需要が順調に推移した。欧州は全体として底堅く推移した。中国は自動車関連以外にも電子機器関連などの生産が安定しており堅調だった。一方、東南アジアは、タイで自動車生産の前年割れが続くなど機械需要が低迷している地域もみられた。</p>
<p>見通し</p>	<p>国内は引き続き自動車関連やスマートフォン向けを中心に、機械需要は堅調な推移が見込まれる。2月から「ものづくりサービス補助金」など新たな投資促進策も始まり、新規設備の</p>
	<p>引き合いや受注の増加が期待される。海外は北米地域で自動車関連の生産が安定しており、機械受注は順調に推移するとみられる。欧州は底堅い推移が見込まれる。中国は電子機器関連などの生産が安定しており、横ばい基調で推移する見通し。一方、東南アジアは、タイで自動車生産の回復が遅れるとみられていることから、機械需要も伸び悩む見通し。</p>

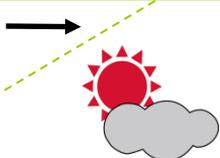
半導体製造装置：海外を中心に安定需要に期待

<p>現況</p>	<p>国内の半導体製造は、大手半導体メーカーを中心に車載向けなど高品質な製品の開発・生産が安定しているものの、機械需要は一部にとどまり、全体として製造装置に対する設備投資の動きは鈍かった。一方、海外は台湾などでスマートフォンやタブレット端末向けの半導体</p>
	<p>製造が堅調に推移しており、製造装置の需要をけん引した。例年、半導体メーカーにおいて装置導入抑制の動きがみられる時期となるが、今期は海外需要への対応などから、一部では例年以上の設備投資を実施した企業もあった。</p>
<p>見通し</p>	<p>国内は、電子制御装置などの車載向けや高機能なスマートフォン向けなど高品質な半導体の製造が見込まれるも、生産ラインの過剰感から新規投資に対して慎重な面がみられ、全体での装置需要は横ばいで推移する見通し。海外は、台湾などで半導体製造の増加が予想され、</p>
	<p>各製造工程における機械需要の高まりが見込まれる。汎用品向けの装置では現地メーカーとの激しい価格競争があるものの、新製品の開発・製造などに対応した付加価値の高い製造装置を中心に収益の確保が期待される。</p>

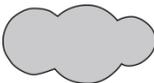
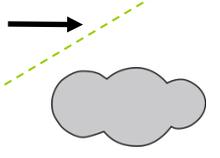
産業用機器：設備需要は安定推移が見込まれる

<p>現況</p>	<p>車載関連機器は、一部メーカーや車種向けを除き全体では堅調に推移した。海外向けは新車需要が旺盛な北米などを中心に順調だった。産業用ロボットなどのFA機器は、国内で補助金など投資促進策の効果から生産ライン等への設備投資が拡大しており、受注は安定的に推移した。水冷装置や空調機器なども、生産設備への需要増加から堅調な動きとなった。住設機器は消費増税後の回復が鈍く、給湯器やガスヒートポンプなどで前年を下回った。</p>
	<p></p>
<p>見通し</p>	<p>車載関連機器は、国内向けは一部に弱さが残るものの、北米を中心とする海外向け需要がけん引し、全体として引き続き堅調な動きとなる見込み。産業用ロボットなどのFA機器は、補助金の活用などで国内における設備投資需要の広がりが続くと見込まれ、受注の安定推移が期待される。水冷装置や空調機器なども、生産設備の需要増加を受け底堅く推移するとみられる。ガスヒートポンプや給湯器向けなどの住設機器は、リフォーム需要などが見込まれるも新築住宅の着工増加には至らないとみられ、低調な見通し。</p>
	<p></p>

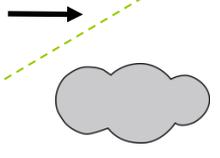
電子部品・デバイス：自動車やスマートフォン向けを中心に堅調に推移

<p>現況</p>	<p>自動車向けの受注は堅調に推移した。海外を中心に完成車需要が安定しているほか、衝突回避システムなどで1台当たりの電子部品使用量も増加している。スマートフォン向けは例年完成品メーカーの在庫調整の時期となるが、旺盛な需要に加え中国の旧正月に合わせた販売促進など受注平準化の動きがあり、前年を上回った。円安の進展による納入先の国内回帰に伴い、国内生産を増やした企業も一部でみられた。テレビなど家電向けやデジタルカメラ向け、および個人向けの受注が落ち込んでいるパソコン向けは低調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは安定した完成車需要に加え、電子部品の使用量増加から受注は堅調に推移する見込み。スマートフォン向けは、新製品向けなどの受注が足元好調であるほか、例年秋以降に発売される新製品に向けた部品受注が立ち上がる時期であり、引き続き好調な受注が見込まれる。家電向けやデジタルカメラ向けは受注の低迷が続き、引き続き低調に推移する見込み。パソコン向けも個人向けの需要回復は見込めず、低迷が続く。</p>
	

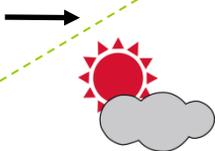
自動車部品：明暗はあるものの総じて海外市場がけん引し需要は底堅く推移

<p>現況</p>	<p>国内は年度末に向けた新車需要の高まりを受け、一部では生産が追いつかない企業がみられるなど、自動車部品の受注は全体として堅調に推移した。一方で、完成車メーカーの中には生産調整を行った先もあり、企業間で業績に差がみられた。車種別ではハイブリッド車や軽自動車など、低燃費車向けの部品需要が安定していた。海外は、景気回復を背景に、新車販売台数が増加している北米向けの需要が好調であったほか、中国向けも安定して推移した。東南アジアは生産が落ち込んだ地域もみられ低調であった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内はハイブリッド車や軽自動車など低燃費車の底堅い需要に支えられ、例年並みの水準を維持する見通し。新型モデル投入による受注増加を期待する企業がある一方、一部完成車メーカーでは、生産調整を継続するなど弱い動きが続き、受注減少を予想する企業もみられる。海外は、引き続き新車需要が好調な北米向けがけん引するとみられ、中国向けも横ばいでの推移が見込まれる。東南アジアは回復が遅れており、引き続き低調に推移する見通し。</p>
	

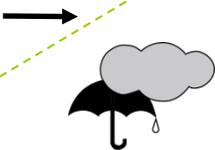
光学・計器：産業用や建機・自動車向けを中心に堅調に推移

<p>現況</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは半導体関連向けの受注が堅調だったほか、プロジェクター向けが前年を上回って推移した。デジタルカメラ向けは需要の低迷から、低調であった。スマートフォン向けは堅調だったが、価格競争の激化から利益幅が減少した。自動車向けは、安定した完成車需要を受け堅調に推移した。計器関連は、自動車向けが堅調だったほか、建機向けが前年を上回った。ガスや水道など住宅設備向けは、更新需要を中心に受注は例年並みであった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連では、産業用レンズは半導体関連向けやプロジェクター向けなどの受注が堅調に推移するとみられる。デジタルカメラ向けは需要の低迷により、一部の高付加価値品を除き低迷が続く。スマートフォン向けは秋の新製品受注が立ち上がるが、価格競争の激化から利幅は減少する見込み。自動車向けは、国内・海外ともに堅調な受注を見込む。計器関連は、住宅設備向けは、10年に1回交換が義務付けられているガスメーターの更新需要期に入り、需要増加が見込まれる。建機・自動車向けは安定的に推移するとみられる。</p>
	

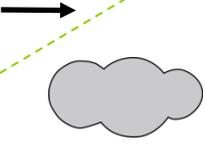
プラスチック製品：海外需要に支えられ堅調な受注が見込まれる

<p>現況</p>	<p>自動車関連では一部完成車メーカー向けで生産調整から受注減少がみられた。しかし、人気車種のモデルチェンジや新型車発売のほか、北米など海外向けの完成車需要もあり、全体では堅調だった。OA・情報関連は複写機向けがトナーなど消耗品を中心に底堅く推移した。スマートフォン向けは、中国系メーカー向けの受注拡大や完成品メーカーによる中国の旧正月に向けた販促から、前年を上回った。工作機械向けは活発な設備投資を背景に、受注は高い水準で推移した。容器類は飲料や食品用でメーカーの内製化が進み、前年を下回った。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車関連では、一部完成車メーカーにおいて生産調整が続くものの、国内の完成車販売が回復傾向にあるほか、北米などの海外需要もあり、全体として堅調に推移する見通し。OA・情報関連では、複写機向けで底堅い受注が見込まれる。スマートフォン向けは、新製品向けの受注が好調であるほか、秋に発売される新製品向けの受注も立ち上がり、前年を上回る見込み。工作機械向けも機械受注は好調に推移し、高い水準の受注が見込まれる。</p>
	

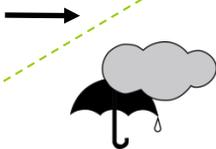
飲料製造(ノンアルコール)：コストの高止まりから厳しい収益環境が続く

<p>現況</p>	<p>清涼飲料は、ニアウォーターを含む飲料水やホット飲料などの需要が堅調に推移し、全体の販売量はおおむね前年並みとなった。ただ、果実・野菜飲料の中には、消費者の節約志向の高まりを受け、動きの鈍い商品も一部ではみられた。原料果実を輸入している企業では、円安などの影響により、仕入れコストは上昇した。また、包装資材や保管・運送などのコストも高止まりする一方、販売価格の値上げは一部にとどまった。OEM受注先からの加工賃引下げの要請も強いなど、厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料は、飲料水や茶系飲料の堅調な需要が見込まれ、全体の販売量は前年並みで推移する見通し。果実・野菜飲料も安定して推移するとみられるが、動きが鈍い商品も一部では見込まれる。コスト面では、円安などの影響で輸入原料果実や包装資材等の高止まりが続くとみられる。また、商品への価格転嫁も一部では予定されているが、コストの増加分を全て転嫁することは難しい。依然として、OEM受託先からの加工賃引下げの要請も強く、厳しい収益環境は続く見通し。</p>
	

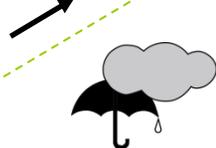
清酒・ワイン：需要は安定するも、収益面では厳しい

<p>現況</p>	<p>清酒は、消費増税前の駆け込み需要がみられた前年同期をやや下回ったものの、純米酒や吟醸酒などの特定名称酒が堅調に推移した。一方で、一般的な普通酒は減少傾向が続いており、特定名称酒よりも普通酒の取り扱いが多い企業では前年からの減少幅が大きくなった。ワインは、国産原料を用い国内で生産された日本ワインに対する関心の高まりなどから、前年並みの販売量を確保した。清酒・ワインともに包装資材価格や運送コストなどは高止まりしており、収益を下押しした。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清酒は、堅調な特定名称酒に加え、季節限定商品などの販売促進により、消費増税後の反動減がみられた前年同期の販売量を上回り、例年並みを確保する見込み。ワインは、試飲イベントなどの集客力が向上するなど、消費者の裾野の広がりや日本ワインへの評価・注目が高まっていることから、需要は増加する見通し。清酒・ワインいずれも、資材価格や運送コストの高止まりが続く一方で製品への価格転嫁等の動きは鈍く、収益改善は厳しい見込み。</p>
	

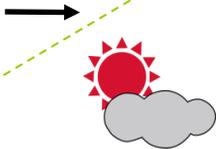
味噌：原料価格の高止まりを背景に厳しい収益環境が続く

<p>現況</p>	<p>大手メーカーが手がける即席味噌は、減塩など健康にこだわった商品を中心に堅調に推移した。一方で、県内事業者の主力商品である生味噌の需要減少傾向は変わらず、減塩や無添加など一部の商品を除いて、駆け込み需要のあった前年を下回って推移した。円安による輸入大豆価格の高止まりに加え、昨秋収穫分の国産大豆価格が上昇した。原油価格の低下から包装資材価格の引き上げ要請は収まっているものの、運送業者の配送コストも上昇しており、全体として厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>売り上げは全体として消費増税に伴う反動減があった昨年を上回るものの、主力商品である生味噌の需要減少傾向は続くとみられる。大手メーカーでは即席味噌や、無添加や減塩など健康に配慮した新商品により販促を図るほか、一部の中小メーカーでは、調理味噌など事業者向けの商品の拡充および販路開拓を図るとみられる。原材料は原料米価格が低下しているものの、輸入大豆および国産大豆ともに高止まりが予想され、厳しい収益環境が続く。</p>
	

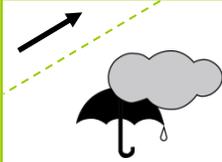
その他食料品製造：価格転嫁や観光客増加の効果に期待

<p>現況</p>	<p>加工肉、乾燥食品の販売量は前年と同水準であったが、円安の影響による仕入価格の上昇が収益を押し下げた。大豆関連製品は、健康志向に伴う需要増加により一部では在庫不足となったが、大豆価格は高止まりが続き収益圧迫要因となった。漬物は土産物等の観光客向けの売り上げが低調であった。製粉では、そば粉は原料となる玄そばの値上がり分の価格転嫁が進んでおらず、収益を下押しした。コンビニ向け惣菜は堅調に推移した。業界全体では、仕入価格上昇に対しての価格転嫁は一部企業にとどまり、収益を圧迫する状況が継続した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>加工肉、乾燥食品、大豆関連製品は、安定した需要により前年同期並の販売量が維持される見込み。また、大手企業と同様に仕入価格の上昇に対する価格転嫁を進め、収益は改善に向かう見通し。製粉も、玄そばの値上がり分の価格転嫁が進むとみられる。また漬物は、善光寺御開帳、大型連休による土産物需要の増加により売り上げが上向く見通し。コンビニ向け惣菜も観光客増加による販売量の増加が見込まれる。業界全体では、価格転嫁や観光客増加の効果により業況の改善が期待される。</p>
	

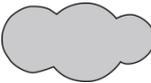
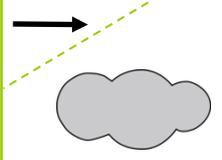
機械器具卸：設備投資の活性化により堅調な推移が見込まれる

<p>現況</p>	<p>工作機械は、自動車関連やスマートフォン向けを中心に受注は堅調に推移した。新たに始まった投資促進策により、新規設備を導入しようとする動きも出て引き合いも増えた。工作機械と同様に、工具類も自動車部品向けを中心に底堅く推移した。分電盤や配線機器などの電設資材の受注は、公共工事も安定して出ており堅調だった。太陽光発電設備に関しては、4月からの事業者向け電力買取価格の引き下げが見込まれたことから駆け込み需要が発生し、受注状況は良好であった。省エネ対策から、LED照明の受注は順調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>工作機械は、引き続き自動車関連やスマートフォン向けがけん引していく見込み。投資促進策がきっかけとなり、設備投資の動きが活性化することが期待される。工具類も生産が持ち直していることなどから、堅調な推移が見込まれる。電設資材は、住宅関連の需要が落ち着いているが、公共工事に下支えされ安定推移する見通し。太陽光発電設備に関しては、引き合いが減少すると見込まれる。ただし、既に受注している手持ち案件もあることから、業績への影響は限定的とみられる。LED照明の受注は順調に推移する見通し。</p>
	

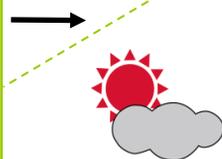
大型小売 : 食料品に期待するも、収益環境は厳しさが続く

<p>現 況</p>	<p>百貨店では、気温が高めで推移するなど天候不順の影響もあり、衣料品が振るわなかった。また、高額品は首都圏ほどの強さはみられず、駆け込み需要が活発だった前年の売上げを大きく下回った。スーパーでは、鮮魚や精肉などの価格が高めで推移したこともあり、生鮮食品を中心に売上げが伸びたほか、総菜なども好調だった。一方、仕入れ価格は上昇傾向にあるものの、競合店間の価格競争から価格転嫁への動きは鈍く、収益環境は厳しさが続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店では、高額品や衣料品の回復に時間がかかる見通し。一方、食品催事などで一定の集客が見込まれることから、食料品は堅調に推移する見込み。スーパーは、生鮮食品などを中心に今後も底堅く推移するとみられ、総菜なども引き続き好調な見通し。しかし、仕入価格の上昇が予想されるものの、スーパー以外の業態を越えた競争も激しくなっており、販売価格への転嫁は慎重になるとみられる。収益環境の厳しさは続く見通し。</p>
	

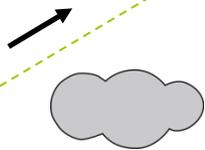
自動車販売 : 販売台数は例年並みを維持する見通し

<p>現 況</p>	<p>年度末の最需要期を迎え新車販売台数は前期に比べ増加したが、消費増税に伴う駆け込み需要により大きく伸びた前年同期には及ばなかった。ただし、一昨年の販売台数を上回るなど、例年並みの水準は確保した。車種別では低燃費車人気が広がり、販売数を伸ばした。また、軽自動車ではファミリーにも対応した室内空間の広いタイプが好調だった。中古車は、新車の買い替えにより仕入れが増加した年式の新しい車両を中心に売上げが順調に推移した。輸入車は新型車の販売が堅調だった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>消費増税後の反動減が見られた前年を上回り、例年並みの販売量を維持する見通し。ただ、エコカー減税制度の基準が4月から厳格化されるため、減税対象外となる車種では売上げの減少が懸念される。一方、4月から実施される軽自動車増税はユーザーの負担増加が軽微であるため、販売への影響は小さいと予想される。中古車については引き続き年式の新しい車両の販売が堅調な見通し。輸入車は円安の影響から、各社で値上げが予定されるが販売台数は例年並みで推移する見込み。</p>
	

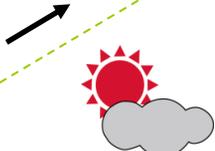
公共工事 : 道路整備、防災対策工事を中心に、高い水準の工事量を見込む

<p>現 況</p>	<p>官公庁から発注される工事件数は前年同期を下回ったが、これまで発注された手持ち工事が高い水準にあり、全体として前年並みの工事量を維持した。発注者別にみると、国では、昨年に比べ補正予算額がやや減少したため、工事量は伸び悩んだ。県では、災害関連や道路整備等の土木工事が目立ち、前年をやや上回った。市町村では、災害復旧工事などを中心に発注された。業界全体として工事量は高い水準にあり、一部職種の技能者や現場作業員の確保が困難な状況が続いている。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>官公庁から発注される工事量は国、県ともに昨年をやや上回る予算規模が計上されており、高い水準となる見通し。国では、道路整備など土木工事などで堅調に推移するとみられる。県では、防災対策関連予算が拡充され、工事件数は増えていく見込み。市町村では、学校施設の改築や耐震化工事も予定されており、底堅く推移する見通し。人手不足は一時期に比べ緩和されつつあるが、技能者や現場作業員の不足が続く。</p>
	

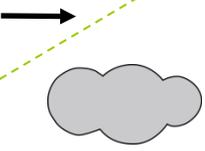
民間工事 : 設備投資関連の受注増加が見込まれる

<p>現 況</p>	<p>民間企業の設備投資は、幅広い業種で工事案件が増加した。製造業では、自動車関連を中心とした工場の改修や増設などの動きから受注は上向いた。非製造業では、医療・介護関連に加え、小売店舗の新設・改修案件などもみられ、底堅かった。住宅関連では、国による住宅エコポイント制度など住宅取得支援策もあり、各社ともに展示場・ショールーム等への入り込み状況は順調に推移した。ただ、住宅購入を後押しする力強さに欠けたほか、消費税引き上げの延期も加わり受注は伸び悩んだ。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>民間企業の設備投資は、製造業で一般機械や精密機械関連等の工場新設、増設案件のほか、非製造業でも小売や飲食関連等からの受注増加が見込まれる。住宅関連では、国による住宅取得支援策の効果に加え、所得環境が改善の兆しをみせていることから、住宅購入意欲は徐々に高まっていくとみられる。しかし、消費税引き上げに向けた駆け込み需要の増加はまだ先になる見込み。リフォーム案件工事は、住宅エコポイント制度の利用によるエコ住宅設備の設置や改修工事などが増えていくとみられる。</p>
	

旅客 : 大型連休や善光寺御開帳を中心に観光客の増加を見込む

<p>現 況</p>	<p>貸切バスは、制度改正による運賃上昇の影響もあり、首都圏や関西方面からのツアーを中心とした団体利用が伸び悩んだ。高速バスは、首都圏方面のビジネス客や学生客を中心として例年並みに推移した。外国人スキー客による白馬方面への空港便利用も順調な結果となった。タクシーは一般利用客が伸び悩み、全体的には低調であった。ただし外国人による空港からの乗合ジャンボタクシーの利用は堅調に推移した。燃料価格の低下から、収益環境の改善がみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>貸切バスは、春の行楽シーズンを迎え団体利用は堅調に推移する見通しだが、新運賃制度の全面適用により全体では利用客減少が懸念される。高速バスは、長野方面、東京方面それぞれの利用増が期待される。タクシーは、観光利用の増加が期待されるが、一般利用客が伸び悩むとみられる。善光寺御開帳の開催により、北信地域では観光客増加が見込まれる。中南信地域では地元自治体と観光事業者とが連携して、北信からの観光客周遊を促す動きもみられ、利用者増加が期待される。燃料価格は低水準で推移し、収益面での改善が続く見通し。</p>
	

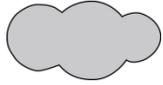
貨物 : 燃料価格は安値圏で推移し、安定した収益環境が続く見込み

<p>現 況</p>	<p>全体の貨物量は、横ばいで推移した。自動車部品は、軽自動車・低燃費車が期待ほどの荷動きなく一部でやや低調に推移した。機械関連は、建設機械、工作機械など需要の盛り上がりを受け、荷動きは順調であった。食品関連の荷動きは底堅く推移した。ドライバーの長時間労働改善のため、厚生労働省の「改善基準」である1日の拘束時間と運行時間の順守が求められる、長距離便の運行計画の見直しが進んだ。運賃値上げ交渉は荷主企業により差はあるものの進展がみられ、加えて燃料価格の低下が進んだことから収益改善につながった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は、横ばいで推移する見通し。自動車部品は、新型車・低燃費車で堅調な荷動きが見込まれる。機械関連は、建設機械、工作機械などで順調な荷動きが見込まれる。食品関連は、例年並みの荷動きとなる見込み。荷主企業との運賃値上げ交渉は今後も継続される見通しで、運賃値上げを了承した荷主企業に運送をシフトする動きもみられる。業界全体のドライバーと車両の不足は改善の目途がつかない状況が続く。一方、燃料価格は安値圏で推移するとみられ、安定した収益環境が続く見込み。</p>
	

ホテル・旅館：善光寺御開帳や大型連休による宿泊利用の増加を見込む

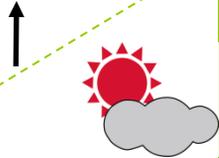
現 況

都市部では、ビジネス客・観光客ともに宿泊利用は堅調に推移した。1、2月は安定して推移したほか、3月は北陸新幹線延伸に伴うビジネス・観光の両面からの宿泊利用の増加した。観光地では、天候不順による影響もなく、宿泊利用は堅調であった。宴会利用は新年会、歓送迎会シーズンを迎え、件数・規模とも前年並みを維持した。スキーや観光を目的とした外国人観光客は、オーストラリアやアジア諸国を中心に順調に推移した。



見 通 し

大型連休の日並びの良さから観光需要の高まりが期待され、都市部・観光地ともに宿泊利用は順調に推移すると見込む。また北信地域では、善光寺御開帳の開催や北陸新幹線の延伸により予約状況は好調に推移しており、個人・団体客とも宿泊利用の増加が見込まれる。北信地域から離れた観光地でも、観光客の周遊を促し、宿泊客の誘客に取り組む動きもみられる。一方で、誘客要因が減少する6月以降の利用状況を懸念する見方もある。外国人観光客は、アジア諸国を中心に堅調な利用が見込まれる。



(DI: 上昇割合-低下割合)

販売・仕入価格見通しDIの推移

